

---

# 取説ッ! (とりせつッ!)

橘 猫音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

取説ッ！（とりせつッ！）

### 【Nコード】

N9928Y

### 【作者名】

橘 猫音

### 【あらすじ】

人類全ての細胞に強化遺伝子を取り込まれ、全ての人類が能力者と成った某年。ある少女は能力育成高校受験会場に居た。そんなこんなで始まる能力バトル有りギャグ有りの学園コメディです。どうぞお楽しみあれ！

熊咲学園高等部入試会場にて彼女は…（前書き）

少々の残酷な表現があります（、・、） 以上ですb

熊咲学園高等部入試会場にて彼女は…

受験番号37

星村 渚 一枚の紙のまえに彼女の端麗な顔に普段のいたずらな笑みは消えていた、代わりに彼女は苦笑いで口元をつり上げていた

（ぜ…全然解らない…！）

此処は熊咲学園高等部戦技科入試会場

傭兵志望の生徒が集まる能力育成二次校だ

（能力育成特種校だからってなめてかかってたかも…大丈夫かな…？）

数時間後

キンコンカンコン

彼女の答案は全て五割埋まらずに無情にも筆記試験終了のチャイムが鳴った

（おっ…わっ…たあーっ！）

「ふいー…終ったあ！ なあお前どーだったよ？」

「俺？ちよーびみよー（笑）」

男子の受験者の傷の舐めあいが耳に入る

（僕：エリア4出身だし、誰も知り合い居ないだろうなあ…）

覚悟は出来ていただろうが彼女もやはり寂しいところはあるらしい

XX03年 地球は全部で423のエリアに分けられていた

そのなかでもかつて日本と呼ばれていた島はエリア3からエリア7までの5つに分けられている とはいえエリア3とエリア7は人類を脅かす境獣ケイジユウとよばれる生き物を隔離…というかそれらが野放しになっている地域な訳だが

キンコンカーンコン

チャイムが鳴り放送が入る

「筆記試験お疲れ様です、次は実技試験ですので、受験者の皆さんは10分間の休憩の後、会場の前に5人ずつ試験番号順に並んで下さい」

実技？面接じゃないの？ と思った人もきつと居るだろう

此处は戦技科だ

実技試験では戦闘のプロ つまりプロの傭兵とのゴムナイフを使った戦闘となる

プロの傭兵から見ての戦闘における素質及び5組の戦闘が同じプロアで行われるため、周囲に注意を向けながらの戦闘になるため、常

に変化する戦場に適応するための適応力も同時に試される

（此处で取り返さないと…でも…ちょっと怖いなあ…）

傭兵は戦闘のプロだ　どんな状況でも焦ることは無く冷静な判断が出来るものだ

つまり「一瞬のスキが命取りになる」ということだ

ハンデとして事前に割り当たった相手の戦歴のデータが受験者に渡される

（僕の相手は…「久茂風羅」<sup>くもふうら</sup>　両手両肩に武装強化の能力を持つ27歳の男性…　武装強化か…嫌な相手に当たったな…）

今回の戦闘はゴムナイフを使った模擬戦だ

受験者の怪我、死亡を防ぐため、武装強化の能力は封じられているだろう

そういう意味ではハイパワーやロックオンの能力に当たった者より有利かも知れない

だが、相手の能力は武装強化　普段から特種工作などで他の傭兵よりナイフの扱いは数倍上手いだろう

（僕の不安定な使い方も解らない能力でどこまでやれるんだ…？  
ここで周りより長けていなかったら…っ）

星村渚の能力は左足がヘビーガード（重化）右足の能力はマッハス

スピード（音速化）だ、希少な劣性遺伝子の高速化能力も、片足だけでは高速接近も出来ず、意味を持たない、しかもヘビーガードで余計に重みを増し、上手く扱えなくなる

ちなみにこの時代には、万人に能力が存在するとされた

能力の歴史は230年前

地球の一部に前触れもなく「境獣」が出現しはじめた

境獣の出現により、人類の存亡が脅かされた、そこで人類は彼らに対抗するため、両親の精子、卵子の力を司る第5染色体に「身体能力上昇」の遺伝子を組み込んだ。

そこで産まれた多数のニュータイプ（強化人類）は人類と共に独自の発展を遂げ、現在に至っては6種類とその他の数多くの能力が展開している。

まず渚の右足の類の能力「スピード（高速化）」体の一部を他よりも早く動かす事が出来る、劣性遺伝子なので限りなく子供に受け継がれにくい能力で希少とされる。人によって速度は違うが渚の場合かなり上質な物なので「マッハ（音速）」で動かす事が出来る。残念な事に「右足だけ」なのだが。

次に渚の左足の能力「ガード（硬化）」体の一部を他よりも硬くさせる事が出来る能力、此方は優勢遺伝子なので他の遺伝子より子供に受け継がれやすい。人によって硬さは違うが渚の場合はかなり硬質なので、重量化も進むそのため「ヘビーガード（重硬化）」と呼ばれ重宝される。残念な事に「左足だけ」なのだが。

今回の渚の対戦相手「久茂風羅<sup>くもふうら</sup>」の持つ能力は「パスワード（武装強化）」体の一部に持つ（装備、装着している）武器、防具を強化する事が出来る能力、たとえゴムナイフですら、武装強化の能力があれば殺傷力の高いナイフに変える事が出来る。金属に急反応する境界の討伐やバリケードの破壊など、特殊工作を主に担当する、はたまた傭兵意外にも、金属アレルギーの患者専門の外科医などの職に付いている能力者も少なくない。

この他にも、筋力を上昇させることの出来る「ハイアタック（肉体強化）」脳内で闇所でも相手の位置を脳内で把握し、直接攻撃を仕掛けられる「ロックオン（脳内索敵）」一部の体の形を変形させる事が出来る「ボディチェンジ（肉体変化）」の3つの種類の能力がある。

この6つの能力が主な物だが…能力のなかには突然変異により発生した特異な物もありそれらは厄介とされ、社会から偏見の目で見られる者も少なくないようだ…例を上げると口からの放炎「フアイア（放炎）」肌の冷化「スキンアイス（冷却化）」痛みを一時的に消すことが出来る「アネスタスイ（無薬麻酔）」中でも厄介なのが…ある一定条件で何が起こるか解らない解明不可能の能力「フリーダムフリード（無益無決）」だ。

この学校にも上の様な特異能力を持つ人間が少数だがいるようだ。

キンコーンカーンコーン

チャイムがなり、アナウンスが流れる

「34 35 36 37 38 以上の受験番号の生徒は会場にお入り下さい」

（本当に…大丈夫かな…？）

果たして私は使えない能力に頼らずに、久茂風羅にどう立ち向かうのか… 彼女は心配を抱きながら会場となる模擬戦室へと入って行った。

熊咲学園高等部入試会場にて彼女は…（後書き）

最後まで読んでくれた皆さん有難う御座いますw  
今まで頭の中で妄想して居た作品ではあつたのですが、中々投稿するまでに至らなかつたのでしたw 今後とも、不定期ながらも制作予定なので、宜しければ宜しくお願いしますb

## No.25 倉庫にて（前書き）

模擬戦室と呼ばれる部屋に実技試験の為入った星村渚を含む受験No.24～No.28の受験生が目にしたのはコンテナが並ぶ「倉庫」の様な場所だった。そこで星村渚は周りとは違う一見変わった少年と出会う…

## No.25 倉庫にて

受験番号37

星村渚が実技試験の為に入った一室「模擬戦室」はコンテナで視界が少々遮られ、床は渚の体育館のようなイメージとはかけ離れた、倉庫のような場所だった。

（こ…ここでやるのか…）

少しばかり怯えた表情が顔に出る

誰かの唾を呑む音が聞こえる

ビーツ

突然の警告音に受験者全員の体がビクツと痙攣する

静然とする模擬戦室にさつきとは明らかに違う　ドスの効いた男の  
声のアナウンスが流れる

「受験者は指示の後、所定の場所に移動しなさい　繰り返す　受験  
者は指示の後、所定の場所に移動しなさい。　尚移動完了時から戦  
闘開始とする　…それでは動きなさい」

暫くは誰も動かなかった

しかしロクオンの能力者だろう、一人の少年が頭に浮かんだ平面地図に相手の位地を把握したのか、歩き初め、次第に走り始めた

少年につられてか、他の受験者達も移動を始めた

最後にその場に残ったのは星村渚と、黒髪の手だけを赤に染めた目の切れ長なスラッとした風貌の少年だけだった

「お前、行かないんか？」

少年が渚に追突に声をかける

「えっ…？」

どう反応していいか解らず返答に困りおどしている渚に少年はもう一度声をかける

「んー、なんや、じゃあ質問変えよ。お嬢ちゃん…どんなぱんつ履いてるん？ お兄さんに見せてごらん（笑）…」

ニヤニヤした表情を浮かべた彼の台詞には昔から変わらない「大阪弁」の響きがあった

（へっ…変態さんだ…！！）

「で、ぱんつ…って…わーっ 待て待て！逃げんでくれっ（汗）」

目を丸くしながらも後退りして距離をとる渚に彼は引き留めた

「冗談や冗談（笑） 和やかな雰囲気作る思たんけどな、なんで嬢ちゃんが動かないか位わかつちゅーよ 彼奴らみたいに馬鹿じゃないからやろ？」

「えっ…?」

ただどうすれば良いか解らずおどおどしてただけの渚にはなんの  
ことが解らなかった

「だから、この戦のルールもよう解らん戦いで真っ先に動いたらど  
うなるか解つとるんやろ?」

ちよつとわざわざ説明するのが面倒くさそうな顔で彼が言った、  
その直後

機械のような淡々とした口調でアナウンスが流れる

「受験番号25番 前原遼 敗退です 敗因はロックオンの能力に  
より標示された脳内地図を頼りに相手の 黒谷 直哉を探すも、平  
面地図だったため、コンテナの上までは確認できず、上方から降下  
してきた黒谷に背後をとられ、ゴムナイフを首元に当てられ自動降  
伏敗退。」

ニヤリと怪しい笑みを浮かべ、ほらな という大阪弁の男子受験者。

(…最初に動いた人だ…!ほんとにやられちゃったんだ…)

冷静だが相変わらずな口調で彼が言う

「なるほど… 今んで解つたんは、相手にも自分のデータが渡つて  
て、ある程度作戦を立ててきてるちゅーことやな さて…そろそろ  
行こか」

「あつ…あの、一応お名前お聞かせしてもらってもいいですか…？」  
彼は絶対に合格する、高校に入学したあと何かあつたら力になってくれる

そう思つた渚の口から衝動的に出た言葉だつた

「ん…？ 俺か？ 普通は教えないんやけどお嬢ちゃん可愛いから特別に教えたる（笑） 俺は受験番号34 「神足蓮麻<sup>しんそくれんま</sup>」や、宜しくな（笑） ほなそろそろ行くわ」

大阪弁の少年、神足蓮麻はポケットに手をいれてだらだらとコンテナの陰に消えていった。

（神足蓮麻さんか…変わった人だつたな… それに確か「神足」っていう名字 京都って呼ばれてた地域に多いんだよな でも蓮麻さんは「大阪弁」だつたな…？）

「あつ…皆居なくなつちやつた 僕も早く行かなきゃ！」

独りでぼんやり考えていたことに気付いた渚はそういうと小走りに所定場所のライン5に移動し出した。

No.25 倉庫にて（後書き）

最後まで読んでくれた皆さん有難うございましたb

今回二回目の投稿は、少々間取りがおかしく、読みずらかったかもしれませんwすいませんでした。

実は絵も入れたかったんですが、絵には自信が全然ないものでw  
見なさんの妄想力にお任せしますb

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9928y/>

---

取説ッ！（とりせつッ!）

2011年11月30日22時50分発行